

祝 肥後細川庭園 披露式典

2017年3月18日 主催:文京区 協力:熊本県、熊本市



旧肥後熊本藩細川家下屋敷の庭園の跡地をそのまま公園にした「肥後細川庭園」の披露式典＝2017年3月

全国につながる
連携の輪 文京区

● 文人からつながる多角的な連携構築 ●

文京区は、森鷗外、夏目漱石、樋口二葉、石川啄木などの文人が住まい、多くの名作を世に送り出した地です。区はこれらの文人をつなぐの契機とし、これまで様々な自治体と協定を締結し、交流を行っています。2016（平成28）年の熊本地震ではこうした交流関係により、被災地への迅速な支援にもつながりました。

災害発生時の柔軟な対応にも期待

「文教の府」という地域特性

文京区は現在、区内に東京大学を始め19の大学・短大があり、「文教の府」と言われています。江戸幕府の官学の府とも言わべき湯島聖堂、昌平坂学問所があり、明治時代には区内の大名屋敷等が、大学など教育機関に転用されるとともに、出版・印刷等の文化産業も次々と興りました。

こうした歴史や地域特性などもあって、文京区は近代文学発祥の地として、文学史上に名を連ねる文人たちが多く居住してきました。区はこうした文化・歴史をきっかけとした交流を中心に、これまで10の自治体（岩手県盛岡市・茨城県石岡市・

新宿区・新潟県魚沼市・山梨県甲州市
・島根県津和野町・福岡県北九州市
・熊本県・熊本市・熊本県上天草市）
と協定を締結し、文化事業やイベントなどで協力関係を築いています。

石川啄木の故郷として名高い岩手県盛岡市、島根県津和野町は森鷗外生誕の地であり、福岡県北九州市は軍医として赴任した地です。熊本県熊本市、新宿区は夏目漱石や小泉八雲の縁で文化交流が始まっています。山梨県甲州市は樋口二葉の両親が生まれ育った地です。

啄木ゆかりの文化交流

盛岡市は石川啄木生誕の地、文京区は終焉の地という間柄です。没後100年を迎えた2012（平成



2016(平成28)年に行われた「国内交流フェスタ in Bunkyo」

全国自治体が一堂に会した物産展

これまで文京区は、森鷗外や石川啄木、夏目漱石など、文化・歴史のつながりがきっかけとなる協定締結や事業協力に重点を置いてきました。

区では信頼関係や絆をさらに強化し、交流・連携の契機とするため、平成28年3月に特別区全国連携プロジェクトの一環として、「国内交流フェスタ in Bunkyo」を開催しました。このイベントでは、協定を締結している自治体や事業交流のある自治体を招き、特産品の販売など、参加自治体による各種PRが行われました。

出展参加した自治体は13自治体にのぼり、協定等を締結する6自治体のほか、東日本大震災に伴う被災自治体への職員派遣を行っている宮城県石巻市、その他友好交流及び事業協力関係にある6自治体（福島県中島村・福島県南会津町・群馬県下仁田町・千葉県八街市・石川県金沢市・石川県能登町）が参加しました。

区はこの取り組みをさらに継続していくため、今年度も特別区全国連携プロジェクトの一環として、また区制70周年記念事業として、およそ21自治体の参加を得て「国内交流フェスタ2017」を開催する予定です。

24)年には、『石川啄木ゆかりの地』地域文化交流に関する協定』を締結し、両区市のさらなる文化交流の活性化とパートナーシップの強化を図っています。

今なお親しまれる啄木の不朽の名言や人物像に触れることを目的とした講座「啄木学級 文の京講座」は、2007(平成19)年度から両自治体

の共催により毎年、文京シビックホール小ホールで開催しています。今年度は、歌人で山梨県立文学館館長の三枝昂之氏による「現代に生きる啄木」と題した講演や、盛岡市の石川啄木記念館館長の森義真氏との「啄木再発見！」と題した対談を行いました。例年、会場が満席になるなど好評を得ています。

2015(平成27)年3月に、区内の啄木終焉の地隣接地に「石川啄木終焉の地歌碑」と「石川啄木顕彰室」を設置しました。

歌碑には1912(明治45)年4月、文京区小石川(旧小石川区久堅町)でわずか26歳の若さで亡くなった啄木の、最後の歌とされる第二詩集『悲しき玩具』冒頭の2首を陶板にして記しています。碑材には生誕の地盛岡市玉山区洪民に建てられた第一号歌碑と同じ、啄木が愛した姫神山で採掘された「姫神小桜石」を使用しています。

顕彰室では、文京区との関わりを中心に写真やパネル、年表等で啄木の足跡を紹介しています。また、歌碑に使用した直筆原稿やこの地から送った手紙も展示しています。

鷗外でつながる自治体

森鷗外生誕の地である津和野町は、文京区内に東京事務所を開設し、両区市とも森鷗外記念館を開館しています。

また区では毎年、津和野町を含む高津川流域都市交流協議会(益田市・吉賀町・津和野町)との共催で、島根県西部に伝わる伝統芸能「石見神楽」公演を開催し、多くの区民が楽しんでいきます。

「石見神楽」の上演により文化交流の活性化の契機とするとともに、県域の特産品の物販など観光PRを通し、お互いの交流を深めています。



石川啄木の足跡を紹介する「石川啄木顕彰室」

文京区民にとっては、地元とゆかりの深い文人を通じた自治体との交流が知的好奇心を満たし、「文教の府」にふさわしい文化的生活を充足させることができます。一方、交流自治体にとっても、東京とのつながりによって地元の文化や伝統を発信する機会を得ることができます。

平時の交流が災害対応につながる

文京区目白台にある「肥後細川庭園」は、旧肥後熊本藩細川家下屋敷の庭園の跡地をそのまま公園にした池泉回遊式庭園です。区では、これまで「新江戸川公園」としてきた名称を、庭園の成り立ちを尊重した名称とするため公募のうえ、今年3月に「肥後細川庭園」と変更しました。

神田川沿いの約1万9千平方メートルの日本庭園内にある、細川家の学問所や住まいであった「松聲閣」を集会所・休憩所として再整備し、旧肥後熊本藩が幕府に献上していたお菓子「加勢以多」を抹茶と合わせて提供しています。

文京区内で開催される伝統芸能「石見神楽」



住民交流が自治体交流に発展

(熊本県上天草市)

今年2月に相互協力に関する協定を結んだ熊本県上天草市とは、両都市に同じ「湯島」という地名があることから、住民同士の交流が始まりました。これまでに湯島天満宮で行われる文京梅まつりへの参加など、住民間の交流を行ってきましたが、今回の協定は、特別区全国連携プロジェクトの取り組みを踏まえ、次段階である自治体間の交流へと関係を拡大するためのものとなります。



「湯島」つながりで上天草市と相互協力協定を結ぶ



地震発生2日後の4月18日には熊本に向けて支援物資を運んだ

また、こうした平時の文化交流は、2016（平成28）年の熊本地震での災害支援へとつながりました。

地震発生直後に、熊本市の大西一史市長から直接支援の要請があり、迅速な支援物資輸送や、長期間の職員派遣を行いました。

「平時の交流があったからこそ、熊本地震で迅速な対応ができた」ともいえます。

二者間の協力を三者、四者に

さらに熊本地震の際、被災地に近い津和野町を通じて飲料水の支援を行いました。区では、これまで二者間で行ってきた協力関係を三者、四者と広域に広げていくことで、災害時の柔軟な連携などにも応用していきます。そのような関係性の構築を目指しています。

文人のゆかりで文京区とつながった交流自治体が他の自治体とも関係を構築し、複数の自治体同士で多角的に支え合うネットワークを構築することで、いざという時の頼もしい支援体制が期待できるものと考えます。